

リーディングDXスクール事業【実践事例】

海南市立亀川小学校（和歌山県）

【取組内容】 対話とリフレクションによる授業研究会 ～学校DX戦略アドバイザー 前田康裕先生を招いて～

教師の学び方改革：教師による『対話とふり返りを柱とした探究的な学び』

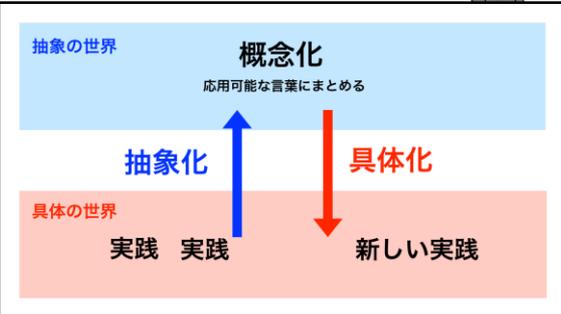
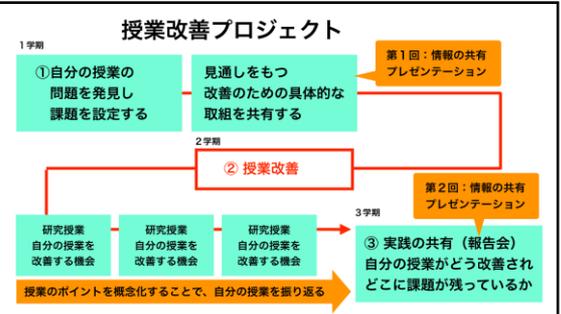
《対話とリフレクションによる授業研究会とは》
 「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善を、ICTを活用しながら、対話とリフレクション（自分自身の授業や思考を客観的にふり返る）を通して実現することが目的。授業のポイントを概念化し、自分の授業の改善点を考え、新しい実践につなげる。
 ↓
 「主体的・対話的で深い学び」を教師自らが体験的に理解できるようにする。

《成果》
 研究授業のみの議論にならず、参加者が自分の授業を対話によるポイントの概念化を通してふり返し、授業改善につなげることができた。来年度は、1年間を通して「授業改善プロジェクト」にも取り組んでいきたい。

従来の授業研究会	対話とリフレクションによる授業研究会
1、授業者の自評 2、質疑応答 3、意見交換（挙手指名型） （ワークショップ型） 4、助言	前半：司会者による進行 1、授業者の自評（5分） 2、グループで対話→タブレットで同時記入（10分） （良かった点：ピンク、改善点・疑問点：水色） 3、司会による意見の整理→焦点化（5分） 4、改善案についてグループで対話（10分） 5、改善案の全体共有→タブレット+口頭（10分） 後半：前田による進行 6、対話によるポイントの概念化（5分）→前田 7、概念化された言葉をタブレットに記入（10分） 8、対話による自分の授業の改善点（10分） 9、全体のまとめ（前田）（10分） 10、全体の振り返り（10分）
問題点 研究授業のみの議論になって参加者の授業改善につながらない 参加者の発言の機会が少ない 助言者に依存していないか？	



1人1人の授業は改善されるのだろうか？



←前田先生の研修スライドより

↑研究会の様子